

令和 8 年度 第 1 回 民芸館運営協議会会議録

1 日時

令和 8 年 8 月 27 日（木）午後 2 時 00 分～午後 3 時 45 分

2 開催場所

平戸橋いこいの広場多目的室

3 出席者

〔委員〕

佐藤 一信、水野 半次郎、小山 幾子、釘宮 順子、近藤 善房、本多 謙二、小澤 万輝

（以上 7 名）

〔事務局〕

成瀬副部長、上田博物館副館長、梅村民芸館長、北谷主査監、濱井主査、白鳥主査、
(株)技研サービス 三代統括責任者（以上 7 名）

4 会議の経過

事務局から成瀬副部長のあいさつ、民芸館職員紹介、委嘱委員紹介、資料 1 により関係法令の概要について説明した。

委員の推薦により、会長に佐藤委員を選出、会長が水野委員を職務代理者に指名した。その後、会長あいさつ、出席委員の報告（7 名）を確認し、本会議が成立することを宣言。議事録署名人として、会長を含む 2 名（水野委員）を指名した。傍聴人なし。

5 会議内容

事務局

（1）令和 7 年度の実績報告について

- ・資料 2 により、令和 7 年度の施設利用者数、展覧会事業、普及事業、施設維持管理事業などについて事務局から説明した。

（意見、質問）

委員

資料 2－①（3）学校団体等の受け入れについて、市内中学校への出前講座等があるが、中学校に向

け積極的に広報しているのか。それとも特定の中学校から依頼されているのか。もっと出前講座等が増えると若い層に知ってもらう機会になるのではないかと。

事務局

中学校を対象に積極的に広報している訳ではない。講座案内パンフレットに団体利用募集の記載がある。実施できる回数に限りはあるが、指定管理事業者が出前講座を実施しているので回数が増えるよう支援していきたい。

委員

中学校で実施している講座は、どのような講座なのか。

事務局

民芸館で開催している陶芸講座を指定管理事業者のスタッフと講座講師が出張し実施している。

委員

資料2-②アンケート結果について、来館者の年齢層は高めである。これは時間にゆとりがある人が多いからだと思う。また、「情報源」のグラフを見るとポスターで知った方が多い。新聞等の広告もあるがポスターやチラシの効果が高いと感じる。

委員

年齢層が高いことは必ずしもマイナス要素ではない。民芸に興味を持つタイミングは、自分の中に色々なものが蓄積された時に反応するものだと思うので、自ずと年齢層が高くなる。そういう方が見るのはチラシ、紙媒体が多い。若い年齢層を増やすためにはSNSの活用や企画力ということになるが、民芸館の果たすべき役割の中では、年齢層が高い人の中で関心を持った人が多く観覧しているということではないか。紙媒体で効果が出ている結果である。

事務局

ポスターやチラシを見て来館した人の割合が高いので、人目を引くようにデザインを工夫することを意識して作っていききたい。ここ数回の展覧会では実を結んできていると思っている。

委員

情報が多いと文字が小さくなりキャプションも図録も見えにくい。ターゲット層が年齢の高い方と分かっているのであれば、視認性を良くしたうえでデザインをするのがよい。

委員

先ほどの出前講座は積極的に広報しないのか。

事務局

人員配置の関係もあり、すべての学校を受け入れるのはなかなか難しい状況。

申込があればお断りすることはないが、広く募集できていないことは課題ではある。

委員

授業の関係もあり近隣の学校の利用が多い。市域全体から学校利用をどう増やすかの検討をして欲しい。アンケートを見るとトイレのことが書かれてあるが、改修等の計画はあるのか。

館内は静かで落ち着いているという意見が多いので、全体を通してアピールできるとよいのではないかな。駐車場や駅からの案内のことも毎度書かれているが、なかなか難しい。円空仏もあるので、民芸館にあるものをもっとアピールできるとよい。

事務局

第3民芸館のトイレ、駐車場や駅からの案内表示はどのようなものが適しているのか考えていく。

委員

アンケートをしっかりと取っていることは素晴らしい。件数も多いが、来館者がしっかり答えてくれている。アンケートの回収率が高い分、課題が浮かび上がってくるので、全てに即対応するのは難しいが、満足度をあげることは必要である。博物館施設は、心癒される体験ができる場所、展示施設だけではない部分が館として機能していることが必要である。

委員

先日、新聞記事に「戦争の反対は平和と言われるが、日常生活を送れないことだ。」とあり個人的に納得した。日常生活があたり前であってあたり前ではない。「民藝」とは日常の中にあるもので、平和につながる大切なものを含んでいると思う。日常の中に美に観点を置いて広報できるとよい。

委員

P5の団体利用の中に犬山市の楽田小学校が来ていて驚いた。どういった経緯で来ているのか。バスで大人数来ると、待機している場所やトイレの問題があると思う。小学校の受け入れはどう対応し

ているか聞きたい。

事務局

今回の楽田小学校は遠足利用で81名の小学生を受入れ、事前に下見や打合せを行った。クラスごとに3組に分かれ、展覧会を解説付で鑑賞した。昼食は次の目的地であるジブリパークで取るとのことだった。

民芸館の場合、昼食場所は天気良ければ外の芝生広場、雨天時は工房棟1階で対応することになるかと思う。雨天時も考慮し、フルサポートで定期的に学校利用を誘致するのは難しいが、依頼があれば、あるものを工夫して対応している状況である。

委員

大人は展示の説明書きを見るがこどもは全く見ていない。だが作品は憶えている。こどもなりの感性があるので、来館できる施設が近くにあることは良いことである。民芸館を選んで来てくれることがすごいと感じた。

委員

桜ウィークなど各イベントを開催しているが同じ人が参加しているのか。

事務局

同じ人はいる。民芸館を含めた一帯が好きで親子で参加される人もいる。新規の人がどれだけ増えているかは不明。

委員

ウォーキングのついでに民芸館にも立ち寄ってもらえると嬉しい。

展覧会ポスターについて、若者視点でいうと、棟方志功とはどんな人物だろうと疑問に思うため、キャッチフレーズが入っていると分かりやすい。

アンケートに「展示ケースの中の展示物が見えにくい」とある。近くに作品の解説が書かれてあるとよい。学芸員が解説してくれる機会もあるが細かいところもあるので、作品を拡大した写真や手に取ってもらうようなものがあればよいのでは。

解説の説明文の有り無しの意見が分かれているが、教養を求めてくるような若者が多いので、手に取ることができる解説があるとよい。

日本民藝館の展示が豊田市でも観られることは嬉しい。日本民藝館はInstagramがあるが豊田市民芸館でもSNSでの発信をしているか。

事務局

豊田市民芸館でもインスタグラムがあるので、ぜひフォローをお願いしたい。

委員

これまでの協議で展示について、いくつかご意見やアイデアを頂いたが今すぐ改善できない部分もあろう。ミュージアムの基本姿勢があると思うがいかがか。

事務局

民藝運動の柳宗悦の残した言葉「見テシリソ知リテナ見ソ」がある。民芸館としてはその思想を大切に鑑賞体験を味わってもらうことを館運営の基礎としているため、解説は少なめになっている。展示場所以外で解説を提供することはできるため、今後積極的に考えていきたい。

民芸の展示は一つ一つの器物の美しさだけでなく、展示として全体の空間として美しいということも大切にしている。空間も目で味わい、感性を大切にしながら民藝や一つ一つの器物の背景などに興味をもてるような、手助けになる解説を今後どのように提供するかは課題の一つと考えている。

委員

若い者が教養を求めている、と聞いたが教養を求める若者が増えているのか。

委員

一般的か分からないが自分の周りには関心が高い人が多い。若者向けの娯楽はあふれている時代に、華やぐものがない場所には関心がないと行かない。若者は見てすぐに理解できるものでないと考え続けることをしないので、民芸館の理念と若者の傾向が離れており難しい。

委員

展示室に入らなくても体験なども含めて入れる間口の広さが民芸館にはある。まずは桜を観に来るなどから繋げていくことも大切であろう。

委員

民芸館に来てもらうことで何か感じてもらうことが大事。場の持つ良さをアピールできるとよい。

委員

瀬戸民芸館でも30代40代が多く来館している。

間口が若い人に開かれた感じがする。生活の中で使うものに興味がある人が増えたようだ。
豊田市民芸館は落ち着いた人が多く来館している感じがする。

委員

施設維持管理で支障木の伐採や桜の植え替えなど維持管理が大変だと思う。民芸の森に雑木林があり老木化している。管理が大切な時期に来ている。周辺環境整備も力を入れてもらいたい。
対岸にも勘八峡公園ができたなら来館者も増えると思う。あわせて周辺の整備に力を入れてもらいたい。隣接している枝下用水の堤防沿いの道路がでこぼこしている。落ち葉も多いので整備してもらえるとよい。一帯含めて利用が増えると思う。

事務局

民芸の森については、オープンから10年が経過し、高木となった樹木等の課題がある。次の協議会報告で今年度の取組を報告したい。また、愛知県が枝下用水耐震化工事を行っており、令和10年を目途に民芸館沿いの用水も整備される予定と聞いている。委員からいただいた意見は関係課に情報提供し、改善につなげていきたい。

委員

木が生えていると環境は良いが、ナラ枯れが進行していることがある。木が一本でも倒れるとリスクが高まりダメージが大きい。愛知県陶磁美術館では間伐をイベントにし薪窯の燃料にし、循環社会を表現していく。企業が環境活動で間伐した木を譲ってもらい薪窯として使う取組を始めていく予定である。

委員

昨年の事業報告に比べて内容が細かくなっている。昨年度との比較が難しいのではないかな。

事務局

人数統計の様式は検討中で、昨年度の集計から項目などを少し変更している。様式が定まったら報告する。継続的に活用でき、美術館・博物館とも統一感のある様式報告にしていく。

委員

特別展と企画展の分け方はどのようになっているのか。チラシを見ても企画展なのか分からない。

事務局

企画展や特別展は内部的な予算上の区別で、外に向けては区別していない。「常設特別展」でも有料

としているものは企画展として報告した。

(2) 令和8年度事業進捗について

- ・資料3により事務局から展覧会事業、普及事業、施設維持管理事業について、説明した。

(意見・質問)

委員

施設維持管理事業にある「収蔵庫 I P M 業務」とは何か。

事務局

文化財害虫の有無の調査や保存状況を良好に保っていく業務である。

委員

以上で協議事項を終了する。

(3) 事務局から連絡

次期指定管理者の公募、第2回民芸館運営協議会の案内。

委員

東京の日本橋高島屋で「民藝展」が開催され、日本各地の民藝が紹介されている旨の案内。

以上で第1回民芸館運営協議会を終了する。